

第38歩

ウェルビーイングな田園都市

旧聞に属する話ですが、昨年5月に発表された民間企業の調査による「住みたい街<都道府県>ランキング」で香川県が全国一位に選ばれています。

その理由には、様々な要因が影響しているのですが、その時、テレビでインタビューを受けていた若い女性が「街の空気と田舎の空気の両方がすぐに楽しめるところがすごく好き」とコメントしていました。まさに都市的利便性と郊外部のゆとりや潤いの双方の利点を日常的に享受できる真の田園都市とも言える土地柄を率直かつ的確に表したコメントだと、妙に感心をしてしまいました。

最近、「ウェルビーイング」という言葉を聞くことが多くなりました。心身が健康で社会的に良好な状態を言う英語の表現です。今、政府が進めている「デジタル田園都市国家構想」によるまちづくりの中心概念としても用いられようとしているようです。それに関連して、先日、幸福学などの研究で著名な前野隆司慶應義塾大学院教授の講演をお聞きしました。先生によると、「ハッピー」という単語の語源は「ハプニング」と同じで、何かが起きたときの瞬間的な嬉しさや喜びを意味する言葉だそうです。一方、「幸福」は、もっと広い概念で、長い時間、持続的に健康で、心が穏やかな状態をいうものであり、英語では、「ウェルビーイング」という言葉が適当なのではないか、ということでした。我々が目指すべき真の田園都市とは、そこに住む人が幸せで、そこにずっと住みたいと思えるような都市である、ということに改めて示唆していただいたような気がします。

本市が毎年度行っている、行政施策の市民満足度調査の令和3年度調査結果では、高松市が「住みよい」「まあまあ住みよい」と答えた人は合わせて90・8%と、調査開始以来、過去最高となりました。また、高松市に「ずっと住みたい」「住み続けてもいい」と答えた人は合わせて88・4%で、こちらも過去最高です。高松のまちの「ウェルビーイング」指数はかなり高いものがあり、真の田園都市たり得るまちだと自信を持って良いのではないかと考えています。

